

音楽科授業案

日時 平成27年 10月22日(木) 5校時
生徒 1年A組 男子12名 女子21名 計33名
授業場 音楽室
授業者 齊藤貴文

1 題材名 「 Interlocking Music 」 [共通事項] アリズム 速度 強弱 構成 イ拍 拍子

2 題材について

(1) 題材観

平成25年、国立教育政策研究所の研究において、今後求められる資質や能力として21世紀型能力が提案された。このことから、これまで以上に思考力を重視した学習活動やアクティブ・ラーニングに代表されるような能動的・協働的な学習を通して、知識や経験を活かした汎用的能力の育成が求められている。

音楽活動は本来、自分の内面にわき上がる美意識とのやりとりが不可欠な教科であり、どこまでも主体的な姿勢が必要である。なかでも創作分野は、音や音楽に自ら働きかけなければ成立しない分野であり、多様な音素材や音選びには、自らの思考・判断を伴って、価値を見いだすことが必要になる。自らの学習経験から、試行錯誤し、音を選び(判断し)、旋律を紡いでいく行為は、けっして容易なものではないが、できたときの達成感や充実感は合唱や器楽演奏に勝るとも劣らない経験ができ、音楽活動の魅力を十分に感得できる分野である。

その中でも、今回は「リズム」に焦点をあて、インターロッキングの手法を通したリズム音楽を創作する活動を設定する。インターロッキングとは、いくつかのパートが互いにかみ合って一定のリズムができるパターンミュージックのことである。リズムのみという一見シンプルな活動ではあるが、そこから生まれる多様な音楽の可能性の広がりを感じさせたい。また、グループでのアンサンブルを通した創作活動を行うことで、音楽はリズムを根源としていることや、仲間と共に協同して音楽を創り上げる喜びを強く実感できると期待している。

また、マーセルも「音楽は楽しいものです。しかし、やさしいものではありません。」¹⁾ というように、今やICT等で簡易に演奏できたり、あるいは心地よい音楽がいつでも聴けたりする現状にある生徒たちに、音楽のよさを実感するためにはけっして楽しいだけではないということも気づかせたい。

(2) 生徒観 省略

1) ジェームズ・L・マーセル著/美田節子訳 「音楽と人間形成」 音楽の友社 昭和42年 P.150

(3) 指導観

以上のことを踏まえ、生徒一人ひとりが主体的に音楽表現を追究することを意図して、「Interlocking Music」という題材を設定した。今回はインターロッキング特有のリズムパターンを活用することで、音楽という様々な要素から成り立つものをあえて限定的にすることで、発達段階にふさわしい学習内容になると考えた。また、基本のリズムを繰り返すことを基本設定とすることで、創作に苦手感をもっている生徒にも取り組みやすくすることとした。

さらに、今回は演奏会の依頼を受けたというロールプレイの手法、そして、関連題材および自他の演奏を分析し内容を可視化・共有化することを本題材の手だてとしている。これらの活動によって音楽活動そのものが生活とのつながりを密接に感じるとともに、音楽活動が楽しいだけではなく、難しく、やりがいがあることを実感する活動となることを期待している。

リズムのみの変化は、音楽の活動としては非常にシンプルな活動ではあるが、時間の経過とともに変化する複雑な音楽の変化の中には音楽の魅力があることに気づかせ、体感させていきたい。

※研究の視点（本実践に焦点化した研究に関わる手だて・・・教科論考参照）

1. ロール・プレイング（役割演技）を手法とした題材計画 A

本題材では私たちに「演奏依頼が来た」という社会における音楽演奏活動の一部をロール・プレイングさせることを手だてとし、実験的・体験的学習を通して、学習と日常生活の結びつきや必要感のある学習になることを期待した。

2. 関連題材を分析し、可視化・共有化する場の設定 B（研究変数）

本題材では関連題材として、既習曲および映像資料等を活用し、分析する場を設定し、それをワークシートに可視化することとした。また、自己の分析した内容について知るために、他者との交流し共有化を図ることとした。

分析することを通して、音楽がどのように構成されているか、人に伝える演奏にするためにはどのような工夫が必要なのかを深く考えることができることを期待している。

3 小中連携による研究とのかかわり

(1) 小学校の題材とのかかわり

音楽科における指導事項については、発達段階において学習指導要領にも連続性・系統的な流れが組まれている。また、題材についてもその指導事項をもとに、設定することが可能なため、図3のような形で示すこととする。

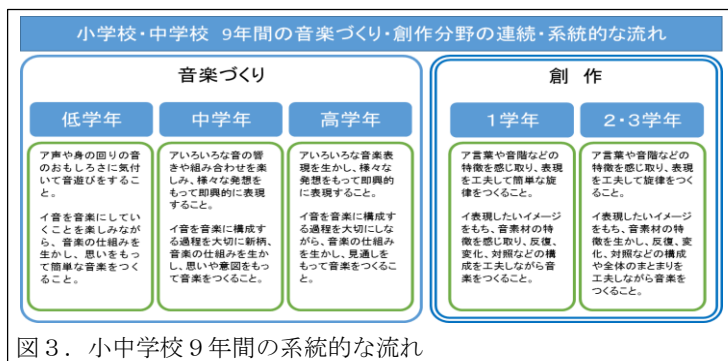


図3. 小中学校9年間の系統的な流れ

(2) 小中9年間において音楽科で育む「自ら学ぶ意味を想像できる児童・生徒」の姿

附属釧路小中9年間において音楽科で育む児童生徒像を右図4に示した。音楽的要素の習得およびそれを活用して、自ら音楽表現しようとする姿を目指している。

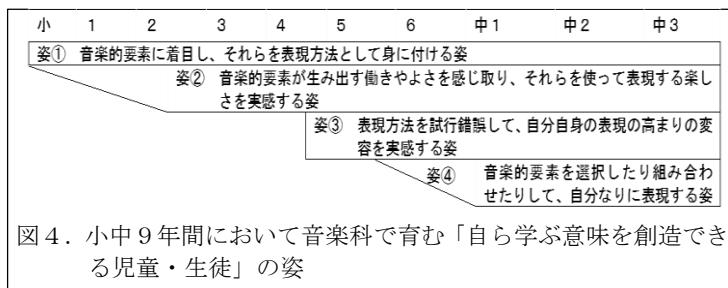


図4. 小中9年間において音楽科で育む「自ら学ぶ意味を創造できる児童・生徒」の姿

4 題材の目標

インターロッキングの特徴を理解し、構成・速度・強弱を工夫しながら音楽をつくる活動に積極的に取り組み、それらを活かして全体としてまとまりを感じられる、魅力的な音楽を表現することができる。

5 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>㊦ インターロッキングの特徴（アクセント・リズム・間などによって生み出される独特な雰囲気など）に関心を持ち、それらを生かした音楽表現を工夫してリズム旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとする。</p> <p>㊧ インターロッキングの特徴を生かし、リズムを反復、変化、対照させることや、構成や全体のまとまりなどに関心を持ち、それらを生かし速度や強弱の変化などの音楽表現を工夫して音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとする。</p>	<p>㊦ 音楽を形づくっている要素（リズム、速度、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、インターロッキングの特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのようにリズム旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>㊧ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽で表現したいイメージを持ち、インターロッキングの特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫し、速度や強弱の変化などの音楽表現を工夫して、旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>㊦ インターロッキングの特徴を生かした音楽表現をするために、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするための必要な技能を身に付けて音楽をつくることができる。</p>

6 題材指導計画

	学習事項	主な学習活動・手だて	評価			
			関	創	技	
関連	サウンドロゴ	◎学級通信のタイトルに合わせてロゴを創る活動。				
1	○題材の概観を学習し課題を把握する ・音楽の構成の理解	○関連題材を通してインターロッキングを体感する ・音楽のコツ①～構成を理解する。 ・既習曲を分析し構成に注目する。 B ・バラバラ楽譜を用いて、構成の理解を深める。	レ イ ン グ A 「演奏依頼が来た」というロール・プ	㊦	/	
2 3	○リズムを中心とした旋律創作活動 ・反復・変化・対照 ・休符	○グループ内でリズムを活かしたインターロッキング・ミュージックを創作する ・音楽のコツ②～休符がある意味を理解する。 ・既習曲を元に休符をどのように取り入れるか考える。 B		㊦	㊦	/
4	○速度・強弱の変化を付けた創作活動 ○演奏相互評価	○エキサイティングな演奏づくり ・音楽のコツ③～強弱・速度の変化による演奏 ・関連題材・既習曲を通して分析する B		㊧	㊧	/
5	○楽曲完成・発表	○最終発表		㊧	/	㊦
関連	2年 お菓子のCMソング	◎お菓子の商品名から言葉のリズムと抑揚を、パッケージの特徴から音楽の構成をとらえたCMソングづくり。				
	3年 東山魁夷にBGM	◎東山魁夷の絵からうける心象を音階と音の重なりを重視して音楽に構成する創作活動。				

7 本時案

(1) 本時の目標

速度や強弱の変化によって生じる曲想の変化に関心をもち、それらを生かして創作したり発表を聞いたりする中で、よりよい作品にするための効果的なアドバイスをを行い、それらをもとに自己の演奏を改善することができる。

(2) 本時の展開 (本時4/5) (○…発問, △…補助発問, □…指示, 説明, WS…ワークシート)

主な学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ・手だて	【評価方法】・備考
<p>1. 関連題材を聴いて特徴的な要素を探ることができる。</p> <p>【特徴】【感受】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だんだん早くなったり、遅くなったりする ・強弱の変化が大きい ・興奮する・飽きない ・おもしろさがある 	<p>□ある曲を途中まで聴きます。【特徴】【どう感じたか】を聴くので、注意深く聴いてください。</p> <p>○次の曲の特徴を2つあげるとしたらどんな所にありますか。</p> <p>△速度・強弱・旋律・リズムの中だと、どれだと思いませんか。</p> <p>○速度や強弱の変化は聴いている私たちの感情にどんな変化をもたらすと思いませんか。</p>	<p>【評価方法】・備考</p> <p>関連題材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンガリー舞曲 <p>【発表】</p>
<p>音楽ってなに?! 音楽のコツ③～速度と強弱を加えてエキサイティングな曲にしよう!</p>		
<p>2. 効果的な演奏をするために、既習曲の分析を行い、速度や強弱の変化をさせる場所やタイミングについて考えたことを発表・記述することができる。</p> <p><どんなところ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もりあげたいところ ・曲の最後の部分 ・何度も繰り返すところ <p><効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・興奮させる・あきさせない ・つよく印象付けるため ・盛り上げる ・期待させる 	<p>□これまでに構成・休符を確認しましたが、今日は自分たちの演奏に意図的に速度と強弱の変化をつけてみよう。</p> <p>○エキサイティングな演奏にするためにはどういところに速度や強弱をつけたらいいと思いませんか。</p> <p>△速度や強弱の変化がついているところはどんな意図があると思いませんか。</p> <p>○既習曲で速度や強弱の変化がある場所について分析しよう。・・・B</p> <p>△速さが変わる部分ではどんな効果がある?</p> <p>△強弱の変化はどのようについていきますか。</p>	<p>【発表・WS】</p> <p>既習曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校歌 ・夢の世界を
<p>3. 自分たちの演奏を速度と強弱を加えて練習をすることができる。</p>	<p>○自分たちの演奏に意図的に速度・強弱の変化する場所をつけて練習しよう。</p>	<p>【観察】</p>
<p>4. 自分たちの発表や他者の発表を分析し、よりよくするための意見を出すことができる。</p> <p>・もう少しはっきりと強弱の差を出したほうがいい。</p> <p>・この部分より後半につけたほうが良さそうだ。</p>	<p>□3つの班に分かれて聴き合ひましょう。</p> <p>○よりよい演奏にするためのアドバイスをしよう。</p> <p>△よりよい演奏にするためという視点を大事にしよう。</p>	<p>【観察】</p>
<p>5. アドバイスを受けたことをもとに、最終発表に向け創作作品を修正することができる。</p>	<p>□アドバイスをもとに、楽譜や演奏を修正しよう。</p>	<p>【ワークシート】</p>
<p>6. 本時のまとめをし、次時への見通しをもつことができる。</p>	<p>□次回は演奏を完成させ、発表しましょう。</p>	<p>【ワークシート】</p>

